平成 28 年度文化遺産フォーラムの開催報告

文化遺産観光プロジェクトでは、平成 27～28 年度に秋田県埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われた、大館市片貝家ノ下遺跡の価値について国際的理解を深めるため、イコモス（国際記念物遺跡会議）の専門家を招聘した文化遺産フォーラムを開催いたしました。当日は秋田県教育庁文化財保護室・秋田県埋蔵文化財センターの職員に多数参加いただき、同遺跡の調査を担当された村上義直氏にご発表頂きました。限られた時間内ではありますが活発な討論が行われた結果、改めて片貝家ノ下遺跡がもつ世界的価値について認識できる良い契機となりました。なお、イアン・リリー氏と本学教員との対談については、2 月 9 日付けの秋田魁新報文化欄に取り上げて頂きました。

１　日　　時　　平成29年2月1日（水）

13:00-13:10　フォーラムの概要説明（国際教養大学　根岸　洋）

13:10-14:00　片貝家ノ下遺跡の調査に関しての口頭発表

（秋田県埋蔵文化財センター職員　村上義直氏）

14:15-15:00　片貝家ノ下遺跡の調査と保存、国際的価値に関してのコメント

（クイーンズランド大学教授　イアン・リリー氏）

２　会　　場　　国際教養大学D棟202教室

３　海外専門家　　イアン・リリー氏（クイーンズランド大学教授）

イアン・リリー博士略歴

1958 年生まれ・クイーンズランド大学アボリジニ・トレス海峡島嶼民研究部門教授。専門分野は考古学およびオーストラリアを含むインド太平洋地域等における文化遺産研究。ユネスコの諮問機関である、国際記念物遺跡会議（ICOMOS）の考古遺産管理委員会事務局長のほか、同じく諮問機関である国際自然保護連合（IUCN）の委員も務める。